

学校教育目標

- ◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成
- ◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

総合学科

笛吹高校の3年間で身に付けてほしい力

- 将来の職業選択を視野に入れた自己の進路への自覚を深め、心豊かに主体的・創造的に生きていくことのできる資質や能力を育成する。
- 個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや、成就感を体験し、学習に対する意欲や態度を育成する。

1年次の目標

『産業社会と人間』の時間、授業体験、社会人講話等を通して、自己を見つめ、地域や社会を考え、将来にわたる生き方あり方について考えを深める。自分の興味・関心や適性・能力等を見出し、自分に合った進路目標の決定に努める。

2年次の目標

目指す進路実現に向けて、自分の適性や進路希望に応じた科目選択・系列選択を行い、専門的な知識・技術を習得する。

3年次の目標

明確な目標意識を持ち、自分の夢や興味関心に応じた知識や技能をさらに究め、進学や就職に対応できる実践力を身につける。

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

2年次以降の具体的な選択科目を決めるために、1年次では自分の個性や適性を発見し、将来の進路や生き方、学習の仕方などを学び、「なりたい自分」探しをします。講演や体験学習を通じて、自分のこととして捉え、職業研究や進学研究をし、理想とする人物の姿を思い浮かべて自分がどう生きるべきかを考えながら授業に取り組みしましょう。

2・3年次では、自分の適性や進路希望に応じた科目選択・系列選択を行い、専門的な知識・技術を習得するとともに、将来の職業生活に必要な態度や能力を養います。就職・進路の幅を広げられるよう真剣に取り組みましょう。

	教科	科目	
1	国語	現代文B	
2	公民	現代社会	
3	保健体育	体育	
4	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	
5	国語	国語表現	選択1
6	外国語	英語理解	選択1
7	家庭	子どもの発達と保育	選択1
8	芸術	構成	選択1
9	情報	情報実習	選択1
10	保健体育	総合スポーツ	選択1
11	理科	生物基礎	選択2
12	農業	グリーンライフ	選択2
13	農業	職業ライセンス	選択2
14	家庭	食文化	選択2
15	福祉	手話入門	選択2
16	商業	簿記実習	選択2

人間科学系列福祉コース

17	福祉	コミュニケーション技術	
18	家庭	子ども文化	選択3
19	家庭	ファッション造形	選択3
20	家庭	フードデザイン	
21	福祉	栄養	
22	家庭	家庭総合実践	
23	福祉	生活支援技術	
24	家庭・福祉	課題研究	

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	福祉・コミュニケーション技術	単位	2	履修区分	必修	必修	・選択
対象学年・類型・コース	3年・総合学科・人間科学系列						
使用教科書	コミュニケーション技術 (実教出版)						
目標とする生徒の将来像	感情や意思、情報を互いに伝えあう、意思疎通の相互作用であるコミュニケーションを身につける。 コミュニケーションの意義や役割を理解する。 サービス利用者や家族あるいは他職種との協働におけるコミュニケーションのあり方、チームケアのためにコミュニケーションの重要性、記録等についての知識・技術を身につける。 介護実践、援助活動で活用できる能力と態度を育てる。						
評価の観点	【関心・意欲・態度】 ・社会福祉援助サービスの方法、アプローチなどについて関心を持っているか。 ・意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。 【思考・判断・表現】 ・社会福祉援助サービスに関する自分の考えを適切に表現しているか。 【技能】 ・社会福祉援助サービスに関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。 【知識・理解】 ・社会福祉援助サービスの意義や役割、社会福祉の基本的な見方や考え方、社会福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識などについて、実際の生活の充実に役立つよう総合的に理解しているか。						
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力			主たる評価の観点・方法	
1 学期	第2回 定期試験	第1編 介護における コミュニケーション 第1章 コミュニケーションの意 義と役割 第2章 コミュニケーションの基 本技術 第3章 援助の技法とコミュニ ケーション 第2編 サービス利用者や家族と のコミュニケーション 第1章 サービス利用者や家族と の関係づくり	・人間の理解と人間関係において、ジョハリの窓等演習を取り入れ、客観的に自己を理解する自己覚知を学ぶ。 ・送り手と受け手とのメッセージで成り立っている相互通行のコミュニケーションを身につける。対人援助におけるコミュニケーションの基本を学ぶ。 ・言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、言葉づかいの工夫や準言語、沈黙・空間の使い方理解し、実践する。 ・傾聴の意味を理解し、受容と共感にいかす。 ・対人援助におけるコミュニケーションの実践を学ぶ。 ・個別援助・集団援助としてのコミュニケーションにおいて、ケースワークの定義や原則を理解する。 ・利用者や家族との関係づくりとして、信頼関係の形成が重要であることを理解し、意欲を引き出す面接の技法を学ぶ。 ・家族への支援として利用者や家族の意向調整する技法を学ぶ。			【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
2 学期	第3回 定期試験	第2章 サービス利用者に応じたコミュニケーション	・どの障害があっても、その人の基本的な権利が守られていることが大切であることを理解し、障害のある人の自己決定を促すようなコミュニケーション方法を学ぶ。			【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
	第4回 定期試験	第3編 介護におけるチームの コミュニケーション 第1章 記録 第2章 チームによる連携	・チームによる一貫性と継続性のある介護を提供するために、重要な役割を持つのが記録であることを学ぶ。 ・他職種との連携で必要なのは、共通の言葉を用いてコミュニケーションをはかることであることを理解する。			【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
3 学期	第5回 定期試験	第3章 スーパービジョンの技法	・スーパービジョンとは、管理運営能力を持つ介護職が指導・教育・評価を行う一連のプロセスであることを学ぶ。 ・スーパービジョンの方法として、相手を知り相手をいかす面接方法を学ぶ。 調理実習 (どのようなメンバーともコミュニケーションがとれるよう実習を通して学ぶ)			【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
検定資格(時期) ・諸費用(予定)	授業用ファイル50円 実習材料費 150円 (徴収予定)						
履修にあたって	・コミュニケーション技術では、ソーシャルワークの過程に必要な技術・方法を学んでいきます。介護職員初任者研修の資格取得を目指す生活福祉コースの生徒にとっては必修科目になっています。日頃の体調管理も含め、服装や授業態度に注意し、毎時間真剣に取り組ましましょう。 ・授業態度・プリントの記入状況および提出状況、DVDの視聴状況、実技試験、筆記試験の成績等から総合的に評価します。						

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・子ども文化	単位	4	履修区分	必修修 ・ 選択
対象学年・類型・コース	3年・総合学科・人間科学系列・生活福祉コース				
使用教科書	子ども文化 (教育図書)				
目標とする生徒の将来像	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などの関する知識と技術を取得し、児童文化の充実を図る能力と態度を身につける。また、保育検定3級取得を目指すことにより、専門的技術の向上を図り、将来福祉関連の仕事に従事できる能力・資質や実践的態度を育てる。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】子どもの遊びや児童文化財に関心を持ち、その伝承と創造の充実向上を目指して意欲的に取り組んでいるか。</p> <p>【思考・判断・表現】子どもの心身の発達を理解し、それぞれの年齢に応じた児童文化財や活動の遊び方や与え方などを具体的に考え、保育実習において活用できるか。</p> <p>【技能】造形・言語・音楽・身体表現活動の技術を身につけ、保育実習等において積極的に表現できるか。</p> <p>【知識・理解】子どもにとっての遊びの意義や、心身の発達について理解するとともに、それぞれの活動や文化財の特徴や活用方法を学ぶ。</p>				
学期	期間	単元・教材名	主たる目標		評価の観点
1 学期	第2回定期試験	<p>「子ども文化」を学ぶにあたって 第1節 児童文化とは ※表現活動 (造形) 第2節 児童文化を歴史から見る</p> <p>※表現活動 (看護) 第1節 素話 第2節 紙芝居 第3節 絵本 第4節 児童文学</p> <p>※表現活動 (音楽・リズム) ※表現活動 (言語)</p> <p>○保育実習の事前事後学習 ※保育実習 (見学)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童文化の目標や内容、学習方法について理解する。 折り紙で、鳥・魚・動物・植物・その他を5種類以上折り、さらに描画を加えて画面を構成することができる。 社会の変化に伴い、子どもの遊びの環境が変化する中での子どもの文化の役割について考える。 乳幼児の発達段階や心身の状態に応じた日常生活の世話の基本的な技術を身につける。 正楽譜を読み取り、ピアノを演奏することができる。 正しい音程とリズムで、表情豊かに歌うことができる。 絵本の選び方、読み聞かせを通して、子どもの心身の発達について考える。 紙芝居の基本的な演じ方について学ぶ。 紙芝居の読み聞かせの練習をし、発表をする。 保育実習の意義や目的を理解し、主体的に実習に取り組む態度を身につける。 		<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>
2 学期	第4回定期試験	<p>第1節 表現活動のおもしろさ 第2節 造る・描く 第3節 言語表現活動 第4節 歌う・踊る・演奏する 第5節 表現活動実際</p> <p>○保育実習の事前事後学習 ※保育実習 (児童文化財を使った実習)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの表現活動の意義を学ぶ。 グループでエプロンシアターを製作し、その演じ方について考える。 グループごとに発表する。 折り紙・ちぎり絵・絵本等を各自で製作する。 7月の見学をふまえ、保育実習の意義や目的を理解し、主体的に実習に取り組む態度を身につける。 実習報告会を通して、学習内容や成果などについて、情報を共有化できる。 		<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>
3 学期	第5回定期試験	<p>第1節 遊びの意義と発達 第2節 遊びの現状 第3節 遊びと遊具・玩具 第4節 遊びと伝承</p> <p>* 保育園実習お礼の作成 まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> 遊びの意義と発達の関係について考える。 遊びの実態について学び、課題について考える。 遊びと遊具のかかわりと、心身の発達に適した遊具の遊び方、与え方、遊び場、遊びなどについて考える。 伝承遊びの種類や遊び方、与え方を学ぶ。 発達段階にあわせたクリスマスカードを作成する。 今までの学習、保育園実習で学んだことをまとめる。 		<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>
検定資格 (時期)	全国高等学校家庭科技術保育検定3級 (前期7月・1分野300円×4分野)				
諸費用 (予定)	音楽・リズム、造形 (折り紙)、言語 (童話の読み聞かせ)、看護の4分野 前期で不合格だった場合、希望者は後期試験 (後期1月・1分野300円) 受験可能				
履修にあたって	<p>・「子ども文化」では、遊びや表現活動、児童文化財に関する基本的な知識と技術を学びます。2回の保育実習では、学んだことを生かす能力や態度を身につけます。内容は、保育検定3級レベルの、専門的な技術を習得します。積極的・主体的に実習等に取り組みましょう。</p> <p>・授業態度・プリント・学習ノート・の記入状況および提出状況、実習記録表、実習作品、実技試験、定期考査の成績等から総合的に評価します。</p>				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・ファッション造形	単位	4	履修区分	必履修 ・ 必修 ・ 選択
対象学年・類型・コース	3年・総合学科・人間科学系列・生活福祉コース				
使用教科書	ファッション造形基礎 (実教出版)、ファッション造形 (実教出版)				
目標とする生徒の将来像	「ファッション造形基礎」の内容を応用発展させ、高度な縫製技術の習得と、創造的にファッション製品を製作できる人材を育成するために、応用性のある知識と技術を確実に身につける。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 ・衣服の構成・材料・製作について関心を持ち、衣生活の充実・向上をめざして意欲的にとりくむとともに、衣服を創造的に製作する態度を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ・衣服の構成・材料及び製作に関して、自分の嗜好や家族の要求との関連をみつけることができる。 ・衣服の製作について、自分の考えをまとめ、目的に応じてどのような材料・デザインなどが適当かを判断する力を身につけている。 ・デザインや材料の選択に関し、個人の創意・工夫を表現することができる。</p> <p>【技能】 ・衣服の構成に関する実習や製図の実習、材料に関する実験などを通じ技能を取得している。 ・製作題材を踏まえた技法を用い、計画に従って能率的に衣服の製作を行うことができる技能を身につけている。</p> <p>【知識・理解】 ・衣服の構成・材料、製作の理論・技術について理解し、衣服を創造的に製作するために必要な知識を身につけている。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第2回定期試験	3章 洋服の製作 (ファッション造形基礎) 2節 製作例 ブラウス・シャツの製作	・上半身を覆う衣服の構成と動作への適応について理解する。 ・ブラウス・シャツに適したデザインや素材を理解し、製作ができる。 ・シャツカラーブラウスの製作を通して、洋服製作に関する基礎的な知識・技術を習得させる。	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
2学期	第4回定期試験	3章 洋服の製作 (ファッション造形) 3節 製作例	・洋服の高度な構成能力とより専門的な知識・技術を習得し、作品を製作することができる。 ・裏地、しん地、その他の付属品などの適切な材料の選定や用具の活用ができる。	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
3学期	第5回定期試験	1. ジャケットの製作	・着心地のよい洋服を製作するための仮縫いと補正ができる。	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
	検定資格(時期) 諸費用(予定)	ブラウス・シャツ：全国高等学校家庭科被服製作技術検定2級(洋服) 1,200円 ひとえ長着：全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級(和服) 1,500円 ジャケット：全国高等学校家庭科被服製作技術検定1級(洋服) 1,500円			
	履修にあたって	・「ファッション造形」では、実習を通して、衣服製作の専門的な技術を学びます。進度状況に差がでる科目ですので、授業時間内に間に合わなかった場合や欠席した場合には、放課後等を利用し、計画的に製作できるよう心がけてください。 ・授業態度・プリント等記入状況および提出状況、提出課題、実習記録表、実習作品、実技試験、定期考査の成績等から総合的に評価します。			

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・フードデザイン	単位	2	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース	3年・総合学科・人間科学系列・生活福祉コース				
使用教科書	フードデザイン (実教出版)、家庭科問題集食物編				
目標とする生徒の将来像	栄養、食品、献立調理などに関する知識と技術を身につけ、健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について考え、実践することができる。全国高等学校食物調理技術検定2級レベルの知識と技術を習得を目指す。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな食事を構成する要素について関心を持っているか。 意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の食生活を見直し、課題を見つけ、その解決を目指して、学んだ知識・技術を生かしたいいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなど工夫し創造しているか。 食事に関する自分の考えを適切に表現しているか。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常食に関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。 食事のテーマに応じた献立作成や適切な食品材料の選択ができ、それに見合った調理の実践を行うことができるか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事を総合的にデザインする基礎的・基本的な知識などについて、実際の食生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第2回定期試験	1 節 食事の意義と役割 2 節 食生活を取巻く現状 1 節 食品の特徴と性質	<ul style="list-style-type: none"> 食事についての意義や役割、学習や評価の方法を理解する。 栄養摂取の現状、食料の供給と消費、食事スタイルの変化と現状、今後の食生活に向けた対策等を理解する。 日常食を作る上で必要な基本的調理技術の習得。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
2学期	第4回定期試験	1 節 からだのしくみと食べ物 2 節 栄養素の役割 9 節 食事摂取基準と食事計画	<ul style="list-style-type: none"> 人のからだのしくみを知り、食べ物の消化・吸収にどのようにかかわっているかを理解する。 5大栄養素についてその役割を確認する。 正しい食事計画を立てられるように、日本人の食事摂取基準とは何かを学ぶ。また、栄養素の設定指標についても知る。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
3学期	第5回定期試験	2 節 食品の生産と流通 1 節 調理とおいしさ 1 節 献立作成	<ul style="list-style-type: none"> 食料資源と貿易の現状などを知り、食品の流通・加工についての現状と課題を理解する。 日常食の献立を満たす条件を理解し、朝食・昼食・夕食の特徴と留意点を把握したうえで、主食・主菜・副菜のバランスのとれた献立をたてることができ、実践できる。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	<p>実習費として年間3,000円徴収する。その他、必要な食材は各自で準備すること。 (含まれるもの: 実習費・検定受験料1,200円・検定問題集500円) 全国高等学校家庭科調理技術検定2級: 7月の受験に不合格の者は、12月に再度、受験をする。</p>				
履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> フードデザインでは、全国高等学校食物調理技術検定2級合格レベルの知識・技術を学んでいきます。 調理実習が多いので、エプロン・三角巾・爪を短く切る・髪をまとめる等、身支度を調べて取り組んで下さい。 オリジナルの献立作成を行うので、個人で実習内容が異なります。そのため、食材を忘れると実習ができなくなります。食材の忘れ物はしないようにして下さい。 授業態度、プリントの記入状況および提出状況、実習、定期考査の成績等から総合的に評価します。 				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	家庭・栄養	単位	2	履修区分	必履修・必修・選択
対象学年・類型・コース	3年・総合学科・人間科学系列・生活福祉コース				
使用教科書	フードデザイン (実教出版)、家庭科問題集食物編				
目標とする生徒の将来像	栄養素の機能と代謝、各ライフステージにおける栄養や労働、スポーツと栄養などに関する専門的な知識を習得させるとともに、国民の健康の維持・増進を図る能力と実践的な態度を育てることを目標としている。全国高等学校食物調理技術検定1級レベルの知識と技術の習得を目指す。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな食事を構成する要素について関心を持っているか。 意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の食生活を見直し、課題を見つけ、その解決を目指して、学んだ知識・技術を生かしたいいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなど工夫し創造しているか。 食事に関する自分の考えを適切に表現しているか。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 供給食に関する基礎的・基本的な技術を習得しているか。 食事のテーマに応じた献立作成や適切な食品材料の選択ができ、それに見合った調理の実践を行うことができるか。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事を総合的にデザインする基礎的・基本的な知識などについて、実際の食生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。 				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付きたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第2回定期試験	第4章 調理の基本 1節 調理とおいしさ 2節 調理操作 3節 調味操作	<ul style="list-style-type: none"> 安全な食べ物をつくり、栄養価の高い、おいしい食べ物をつくるのが調理の目的であることを学ぶ。 非加熱操作 (食材の切り方など)、加熱操作の基本を学ぶ。 調理実習で実践的な力をつける。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
2学期	第4回定期試験	第5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 日本料理の様式と献立 2節 西洋料理の様式と献立 3節 中国料理の様式と献立	<ul style="list-style-type: none"> 和食、洋食、中国料理の基本様式と献立を学ぶ。 課題に沿ったオリジナルの供給食の献立を作成する。 食物調理技術検定1級の指定調理の実習を行うことで基本的な調理技術を身につける。 各自で作成した供給食を実際につくる。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
3学期	第5回定期試験			<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
検定資格(時期) 諸費用(予定)	<p>実習費として年間3,000円徴収する。その他、必要な食材は各自で準備すること。 (フードデザインの授業進度によって、徴収金は変更することもある。)</p> <p>全国高等学校家庭科食物調理技術検定1級: 1月任意受検 (費用1,500円)</p>				
履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> 栄養では、全国高等学校食物調理技術検定1級合格レベルの知識・技術を学んでいきます。 調理実習が多いので、エプロン・三角巾・爪を短く切る・髪をまとめる等、身支度を調べて取り組んで下さい。 オリジナルの献立作成を行うので、個人で実習内容が異なります。そのため、食材を忘れると実習ができなくなります。食材の忘れ物はしないようにして下さい。 授業態度、プリントの記入状況および提出状況、実習、定期考査の成績等から総合的に評価します。 				

平成 30 年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目		家庭・家庭総合実践	単位	2	履修区分	必修修 ・ 選択
対象学年・類型・コース		3年・総合学科・人間科学系列・生活福祉コース				
使用副教材		ニュービジュアル 家庭科 (実教出版)				
目標とする生徒の将来像		人の一生や家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を養う。				
評価の観点		<p>【関心・意欲・態度】 家庭生活全般について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組めたか。</p> <p>【思考・判断・表現】 家庭生活全般について見直し、生活課題を見つけることができたか。</p> <p>【技能】 家庭生活全般に関する基礎的・基本的な技能が身についたか。</p> <p>【知識・理解】 家庭生活全般に関する基礎的・基本的な知識が身についたか。</p>				
学期	期間	単元・教材名	主たる目標		評価の観点	
1 学期	第 2 回定期試験	第1章 家族と家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自分のライフプランを立て、何が必要かを考える 男女共同参画社会について目指す方向を考える。 乳幼児の成長について確認し、段階で必要な物を実践してみる。 現代の問題点について考え解決策を模索する。 高齢社会について考え、高齢者疑似体験などを行い必要なことを考える。 ユニバーサルデザインを実際に考え試してみることでより身近に考える。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>		
		第2章 保育				
2 学期	第 4 回定期試験	第3章 高齢者と福祉	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の衣服について考えることで、現状や問題点を考える。 手縫いとミシンについて復習し、実生活で役立つ技術を確実に身に付ける。 既製服の選択や管理について学び、実生活に役立てる。 世界と日本の住まいについて、比較し特徴を理解する。 自分の家を住みよくする工夫を考え、実践する。 将来に役立つよう、賃貸物件広告などを使い選択能力をつける。 消費者トラブルを学び、自分たちがトラブルに巻き込まれない知識を身につける。 環境について考え、自分たちにできることを実践する。 家庭の収支を考え、将来の生活設計に役立てる。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>		
		第4章 衣生活				
3 学期	第 5 回定期試験	第5章 住生活	<ul style="list-style-type: none"> 世界と日本の食文化について考えることで、現状や問題点を考える。 現代の食生活を分析し、何が必要で、問題か考える。 今の食生活に何が必要かを考え、実践する。 	<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>		
		第6章 消費生活と環境				
検定資格(時期) ・ 諸費用(予定)		実習材料費 400円程度(徴収予定)				
履修にあたって		<ul style="list-style-type: none"> 家庭基礎の授業をもとに、より深く、すぐに実生活に役立つような内容を学び、生活力を身につけましょう。 授業態度・プリント・学習ノート・の記入状況および提出状況、実習記録表、実習作品、実技試験、定期考査の成績等から総合的に評価します。 				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	福祉・生活支援技術	単位	2	履修区分	必修・必修・選択
対象学年・類型・コース	3年 総合学科 人間科学系列 生活福祉コース				
使用教科書	生活支援技術 (実教出版)				
目標とする 生徒の将来像	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得し、様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を身につける。				
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 尊厳とプライバシー、利用者の心理、尊厳を支える介護及び終末期等の対応に関心を持ち、技術の向上をはかろうとしている。</p> <p>【思考・判断・表現】 尊厳とプライバシー、心理、安全面、自立を尊重した介護の役割等を考え、利用者の心身と生活状況に応じた支援方法を判断し、介護従事者としての介護観や倫理観を適切に表現している。</p> <p>【技能】 尊厳とプライバシー、自立の尊重や安全面等に配慮し、サービス利用者の心身と生活状況に応じた介護技術を活用している。</p> <p>【知識・理解】 人体の構造や機能および尊厳の保持や自立支援の考え方、他職種連携の知識を身につけるとともに、利用者の心身と生活状況に応じた支援や、事故や感染の危険性及び終末期における適切な対応について理解している。</p>				
学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の 観点・方法	自己評価
1 学期	第2回 定期試験	第2編 自立に向けた 生活支援技術 第3章 身じたくの介護 第4章 移動の介護	<ul style="list-style-type: none"> 身じたくの介護に関する意義、目的を理解し、その人らしさの表現とともにICFの視点を活かした望ましい介護を考察する。 利用者の心身の状態および生活の状況に応じた整容、口腔ケア、衣類の着脱を学ぶことで身じたくの介護に関する基本的な知識と技術を習得する。 移動の介護に関する意義、目的を理解し、その人の自立生活を目指す上でICFの視点を活かした望ましい支援を考察する。 体位変換、車いすの介助、歩行介助、福祉用具を学ぶことで移動・移乗に関する基本的な知識と技術を習得する。 	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
		第5章 食事の介護	<ul style="list-style-type: none"> 食事の意義、目的を理解し、ICFの視点を活かしたその人の食に対する望ましい介護を考察する。 食事の過程を理解し、誤嚥や窒息の防止、脱水の予防といった安全面での留意点を学ぶことで食事の介護に関する基本的な知識と技術を習得する。 	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
2 学期	第3回 定期試験 第4回 定期試験	第6章 入浴・清潔保持 の介護	<ul style="list-style-type: none"> 入浴・清潔保持の意義、目的を理解し、入浴時の身体への作用、観察の必要性や事故に向けた留意点にふれ、ICFの視点を活かした望ましい介護を考察する。 利用者の心身の状態および生活の状況に応じた入浴・清潔保持の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
		第7章 排せつの介護	<ul style="list-style-type: none"> 排せつの意義、目的を理解し、排せつに関わる生理機能、障害、介護の特徴にふれ、ICFの視点を活かした望ましい介護を考察する。 利用者の心身および生活の状況に応じた排せつの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。あわせて排せつ機能障害時の対応についても基礎的な知識と技術を習得する。 	【関・意・態】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	
3 学期	第5回 定期試験				
検定資格(時期) ・諸費用(予定)	介護職員初任者研修 4,000円				
履修に あたって	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の自立の支援を目的とする介護の役割を理解するとともに、基礎的な介護の知識と技術を身につけます。介護職員初任者研修のカリキュラムに含まれていますので、外部講師の講義には必ず参加しなければなりません。日頃の体調管理も含め、服装や授業態度に注意し、毎時間真剣に取り組ましましょう。 授業態度・プリントの記入状況および提出状況、実習記録表、実習作品、実技試験、定期考査の成績等から総合的に評価します。 				

平成30年度 年間シラバス (生徒配布用)

教科・科目	課題研究	単位	2	履修区分	必修修 必修 ・選択	
対象学年・類型・コース	3年総合学科 人間科学系列 生活福祉コース					
使用教科書	なし					
目標とする生徒の将来像	家庭・福祉に関する課題を設定し、この課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。					
評価の観点	<p>【関心・意欲・態度】 自分の興味・関心や進路希望に応じて、自らテーマを設定し、自主的に調査・研究および報告をする心構えや態度を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】 自らのテーマに沿ってアンケートや聞き取りや本、インターネットからの情報を収集し、実験実習を行う中で多様な角度から問題を掘り下げて、主体的に分析・判断して、課題の追求をし体系的にまとめ、その成果を創意工夫して表現する能力を身につけている。</p> <p>【技能】 調査方法や情報収集の方法、また、報告書の書き方やプレゼンテーションの技術を身につけ、自分がまとめたテーマに基づいて、他の人に伝えるための技能を適切に活用している。</p> <p>【知識・理解】 自ら設定した課題について、新たな知識を主体的につかみ取り、判断して、問題解決の能力を身につけている。</p>					
学期	単元・教材	主たる目標・付けたい力			主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	1 課題の設定 2 研究の方法 3 実験、調査、製作など	<ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心や進路希望に応じて、テーマを設定する。 研究の方法、内容、計画を考える。 実験、実習、調査、製作等を計画的に行う。 			<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
2学期	1 中間発表 2 実験、調査、製作など 3 PPによる発表	<ul style="list-style-type: none"> 実施状況を振り返り、今後の研究内容・計画を立てる。 実験、実習、調査、製作等を計画的に行う。 結果と考察をまとめ、PPを作成する。 PPを使用し、全体で発表する。自己評価、相互評価をする。 			<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
3学期	1 研究報告書の作成	<ul style="list-style-type: none"> 報告書の書き方を理解し、報告書を作成する。 			<p>【関・意・態】</p> <p>【思・判・表】</p> <p>【技】</p> <p>【知・理】</p>	
検定資格(時期)・ 諸費用(予定)	特になし					
履修にあたって	・研究や発表に取り組む意欲、態度、作品などの内容、出席状況などから総合的に評価します。					